

各位

2022年3月18日

会社名 のむら産業株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 清川悦男  
 (コード番号：7131 東証JASDAQ)  
 問合せ先 常務取締役 西澤賢治  
 (TEL 042-497-6191)

## 2022年10月期 第1四半期決算補足説明資料

### 第1四半期の業績は、前年同期比で増収増益 通期予想に対して当初計画通りの進捗

(単位：百万円)	2021年10月期 第1四半期 (参考値※)	2022年10月期 第1四半期	増減率
売上高	1,101	1,156	+4.95%
営業利益	22	30	+32.8%
経常利益	23	30	+32.2%
親会社株主に帰属 する 四半期純利益	9	12	+30.0%

※2021年10月期第1四半期はEY新日本有限責任監査法人の四半期レビューを受けていないため、参考値となります。

### 業績の季節変動性について 下半期、特に第4四半期に売上高、利益とも高まる傾向

当社の売上の約85%が包装関連事業（包装資材・包装機械）です。包装関連事業は、米穀精米袋や米穀用自動計量包装機などのお米に関連する製品を扱っていることから、業績が季節によって変わる傾向があります。特に新米の出荷時期にあたります第4四半期、8月から10月の間では、一年の中で最も売上高が高くなる傾向にあります。

それに比べて、第1四半期の11月から1月は農閑期ということもあって、包装資材があまり出ない時期になります。また、単価の高い包装機械の売上も若干少なくなる傾向もあって、第1四半期は他の会計期間と比較してやや売上げが小さくなります。

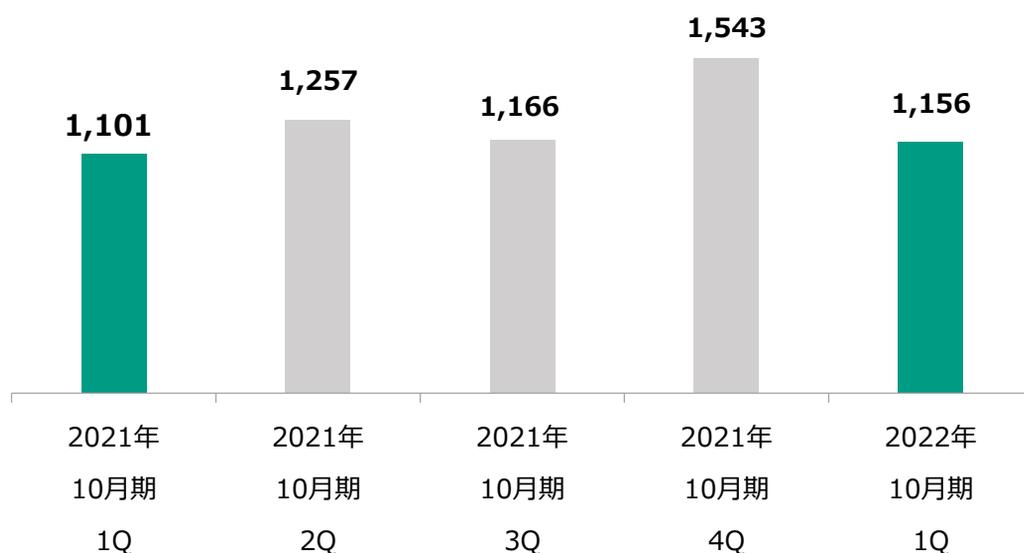
第2四半期以降は売上高も徐々に高くなっていくのですが、粗利率の高い包装機械の売上比率も下期にかけて徐々に大きくなっていくので、売上総利益も増加していきます。また、販管費は四半期ごとであり大きく変動せず一定なため、売上高、売上高総利益の増加とともに、営業利益についても増加していく見込みです。

## 2021年10月期 四半期業績推移

第1四半期は売上高、営業利益ともに四半期では最も低く、第4四半期が最も高くなる傾向

売上高

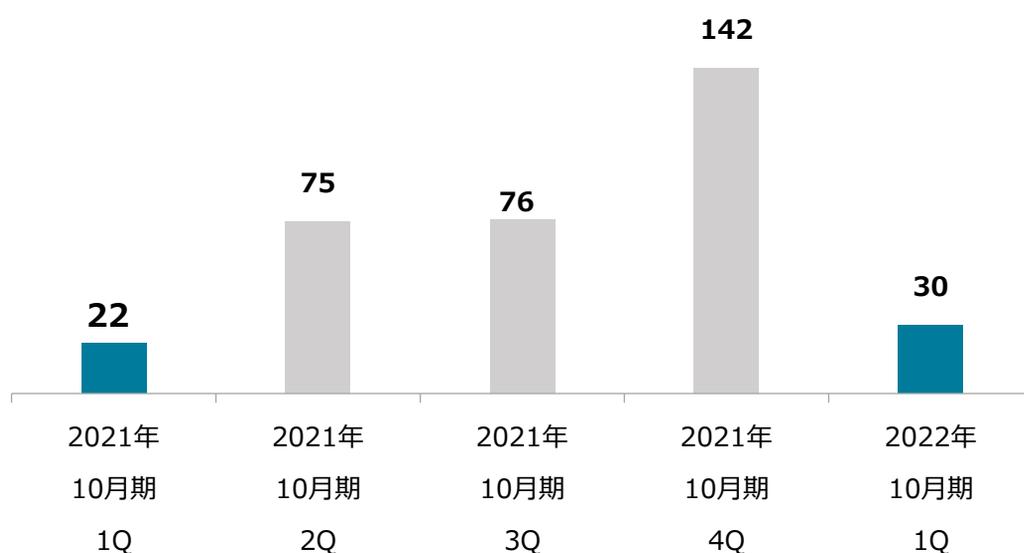
(単位：百万円)



※2021年10月期第1四半期から第3四半期につきましては、EY新日本有限責任監査法人の四半期レビューを受けていないため、参考値となります。

営業利益

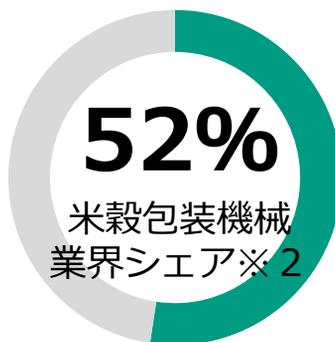
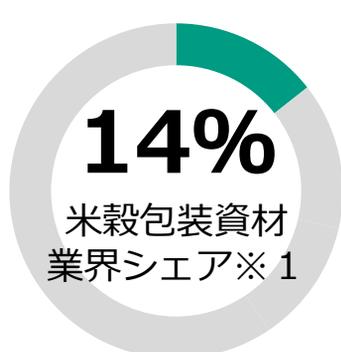
(単位：百万円)



※2021年10月期第1四半期から第3四半期につきましては、EY新日本有限責任監査法人の四半期レビューを受けていないため、参考値となります。

## のむら産業について

### 米穀包装資材・機械をワンストップで 企画・販売しているトップランナー



※1農林水産省「米をめぐる関係資料」（2020年7月公表データ）に基づき当社推定

※2有価証券報告書等各種データより当社 推定2020年データ

※3中期的な継続率の判断材料として 2014年10月期の顧客が2019年10月期、2020年10月期に当社と取引があった顧客ベースで算出

## 私たちの強み

### 独自性

機械と資材の両方を手掛けることでシナジーを創出し、安定的かつ継続的に収益を拡大

### 持続的な 収益の最大化

顧客との長期に渡る継続的な接点により顧客の潜在ニーズを顕在化

### 盤石な 顧客基盤

設立以来積み上げてきた米穀業界を中心とした約2,700社の顧客基盤

当社事業の成長戦略については、是非[2021年10月期決算説明資料の成長戦略](#)をご覧ください。